

アメリカ人形の思い出

矢作の石塚芳衛さん（91）が当時の思い出をお聞きしました。

「人形が矢作小学校に来たとき、私は6年生でした。校長先生よりアメリカから人形が贈られた事を聞いて、何日かしてから、担任の先生が教室へ持って来て、64人のみんなに人形を紹介しました。手にとって見ることはできませんでしたが、青い眼とパーマがかかった金髪だったのを覚えています。私達は黒か茶色かかった眼しか見たことがなかったので、『人形の眼は青いから、どんな物でもみんな青く見えるのかなー』と言った子もいました。

まもなく唱歌の時間になって、武石スイ先生から『青い眼の人形』を『口^{くち}伝^{でん}て』で教わりましたが、今でもちゃんと歌えます。

青い眼をした お人形は / アメリカ生まれの セルロイド
日本の港へ 着いたとき / 一杯涙を 浮かべてた
「私は言葉が わからない / 迷子になったら 何としよう」
やさしい日本の 嬢ちゃんよ / 仲よく遊んで やっとくれ
仲よく遊んで やっとくれ

このとき『セルロイドって何だ』と聞いた子がいて、先生も困っていましたね。まだ一般にはあまり知られていない時代でしたから…。

人形は校長室の先生の机の後ろに箱に入れて飾られていました。

※「青い眼の人形」（野口雨情作詞、本居長世作曲）は大正10年に発表された童謡で、人形が贈られたのは昭和2年のことです。したがってこの歌は「アメリカ人形」を歌ったものではありませんが、当時流行っていた童謡が各地の小学校でも愛唱されたようです。